

校名：鳥取大学附属特別支援学校

所在地：〒 680-0947 鳥取市湖山町西 2 丁目 149 電話番号：0857-28-6340

記載日： 2016 年 6 月 14 日 記載者：加賀田保憲 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

- ・一人一人の人格的自立をめざした教育、「自分づくり」を大切にしている。
- ・国公立知的障害特別支援学校として全国唯一の高等部専攻科を設置している。大学内には卒業生の就労移行支援を行う「ファーストジョブ支援室」、地域には保護者と教職員で設立した「さざなみ作業所」もあり、青年期教育の充実、ニーズに応じた丁寧な進路指導を展開している。
- ・大学の人的・物的資源を活用した教育、研究実践等を行っている。
- ・幼児から小 4 年生を対象として体や心の発達を支援する「ふよう教室」を年 6~8 回開催するなどして地域に開かれたセンター的役割の発揮に努めている。
- ・知の拠点としての学校図書館運営に力を入れている。マルチメディアDAISY図書やタブレット端末を活用した授業実践を進めている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法

高等部卒業・修了後3年間はフォローアップを実施する。

- ・保護者への電話による状況確認…1 年目 2 回以上、2 年目以降 1 回程度（進路指導主事）
- ・職場訪問…1 年目 2 回以上、2 年目以降 1 回以上（中学部・高等部職員）
- ・関係機関（障害者就業・生活支援センター、各相談支援事業所等）との連携による実態把握（随時：進路指導主事）
- ・問題が起こった時などは、進路指導主事、旧担任を中心に随時（4 年目以降も）対応する。
- ・高等部専攻科修了生 32 名の実態調査（アンケート・インタビュー）を H28 年度実施 等

② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）

- ・平成 27 年度に同窓生全員にはがきを出し、近況等の把握を行ったが、約 50% の回収率であった。
- ・卒業生・修了生に関する情報は学校内で所有している。年 2 回進路に関わる職員研修会を実施し、校内における情報の共有を図っている。

③ 状況を具体的に書きください

- ・過去 5 年間の状況としては、離職は少なく、就労継続、ステップアップの進路変更ができています。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法

- ・特には実施していない。

② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）

・特に把握はしていない。

③ 状況を具体的に書きください

・県内の学校数も限られており、転出後も顔を合わせる機会がある。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

・発達の視点で児童を理解することや子どもの内面を集团的・多面的に理解することを、公立学校の授業研究会等で助言。

・感覚やからだの発達を促す指導・支援について、公立学校保護者等に啓発。

・知的障害のある児童生徒が読書の楽しさや知る喜びを味わう学校図書館の実践やマルチメディアDAISY図書を活用等について、県外の研修会等で実践発表。

・地域の人的・物的資源を教材にした学習「レッツ鳥取しまん」の実践を県内外の研究会で発表。学習の中で作成した曲や作品等を県の施設に展示。

・専攻科やファーストジョブ支援室等の場での青年期の自分づくりを支援。専攻科10年の教育実践を刊行物にまとめ、県内外で実践報告を行う予定。

・積極的に大学、地域と連携した学習を展開（ファーストジョブ支援室を活用した作業学習・現場実習、地域の公民館・福祉施設での校外労働、幼稚園の園庭整備等のボランティア活動、地域活性化事業「手づくりまつり」等への参画） 等

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：（一般論ではなく、できるだけ、具体的な状況が理解できるように記載してください）

・研究実践を積み上げ、特色のある実践を展開しているが、まだ十分に地域へ発信できていない。

・少人数で落ち着いて学習ができる学校環境・教育実践に期待を寄せる方も増えつつある。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：・大学教員と連携した先進的な教育研究・実践を展開、公表し、地域の特別支援教育をリードしていくことが大切である。また、教育実習・介護等体験等を通じて、鳥取県の将来を担う人材育成を行う。